速野の福祉

＝発行＝
速野学区
社会福祉
協議会

インタビュー

題字は、大正十一年八月生まれ九十二歳
中野自治会
北村　勇さん
の自筆です。

天気のよい日は、毎日庭の手入れに余念のない北村さんのお顔の艶はとても良く、ありきたりの質問をさせてもらいました。

◎健康の秘訣は？

「自分でどうしよう思っても思うようにはなりません。自然の仕組みに沿って生きるだけです。」

「若いときからおおざっぱなことは嫌われ、きれい好きな人でした。」と奥様。

「美を持って生きています。きれいにするのが好きなので、できることをできるだけやっているだけ。」

◎昨今の世相をどう感じておられますか？

「テレビのニュースには目を見張る。世の中混乱で無茶苦茶。どうすることもできひんが、新しい政治力で不祥事のないよう頑張っていただきたいです。」と、次世代を見据えておられます。

「長い人生、多くの方々にお世話になって今があります。齢に応じてできることをやっていきます。」と結んでくださいました。きらきらと輝く瞳と優しい笑顔に私も元気をいただきました。

今年も沢山実った庭の八朔。はいポーズ！

いつまでもお元気で！

福祉作文受賞者紹介

優秀賞

一年　松原　凛
三年　源　浩輝
三年　谷口　雄大
五年　玉川　輝
五年　川妻　優太朗
六年　川端　彩愛

佳作

一年　前田　大慶
三年　今井　穂里
三年　大矢　彩也花
五年　濱口　聖夏
五年　佐内　詩織
六年　濵野　美咲

福祉作文に寄せて

「本当の豊かさとは」

速野小学校　校長　中川　政明

人間というものは本来、「人のためになりたい、人の役に立ちたい」という気持ちを心の内に秘めていると思います。

子どもたちの作文には、自分がしたことで相手が喜ぶ姿に心地よさを感じたり、思っているだけではなく行動に移せたことで気持ちがよくなったりしたことの経験が数多く綴られています。「自分のできることを増やしていきたい。」、「みんながやさしくなっていったらいいのに。」などと、素直に思いを表現しています。作文を読んでいますと、私はふと「ペイ・フォワード」という映画を思い起こしました。見返りを求めない善意の連鎖を広げていけば世の中を変えることができるのではないかという映画です。人が他の人に親切な行動をする、善意を示すということは、とても大切なことだと思います。

「本当の豊かさ」とは何かと考えたとき、お金やモノの豊かさを第一に求めるのではなく、人と人のつながりを大切にした「心の豊かさ」を求める生き方に私たちは転換する必要があるのではないでしょうか。

小学生福祉作文

「大じょうぶですか。」

三年　谷口　雄大

昔、ピエリで体の不自由な人と会いました。足をまひしたのか、車いすに乗っていました。その車いすに乗った人はジュースを運んでいました。こまっていそうでしたが、ぼくはなかなか声がでませんでした。急いでいなかったのに、声をかけずに行ってしまいました。

今から思うと、なぜ、声をかけなかったのか、「大じょうぶですか。」というたった一言をどうして勇気を出して言えなかったのかと、いやな気持ちになります。もしぼくの体に不自由なところがあったら、だれかに声をかけてほしいのに、はずかしいからできなかったのがいやでした。また会ったら言えるかな、次はゆう気を出せるかなと、一日中考えました。

一か月ぐらいたった日に、またピエリに行きました。目の不自由な人が、つえをつきながら、あっちに行ったりこっちに行ったりしていました。

ぼくは、

「大じょうぶですか。」

と言いました。

「お手洗いはどこですか。」

と言われたのでぼくが連れて行ってあげました。すっきりしてうれしかったです。

これからも、「大じょうぶですか。」とゆう気を出して言います。

５・５交流

五年　川妻　優太朗

ぼくの小学校は、５・５交流があります。５・５交流とは、５才児が入学して安心して学校生活が送れるように入学前に五年生と遊んだり、学校のことを知ってもらえるようにする活動です。ぼくたちは、小学校に来る５才児のために名札を作ったり、読み聞かせに使うための絵本をえらんだり、５才児に楽しんでもらうための魚つりゲームを作ったりしました。ぼくたちは、５才児は魚の種類がたくさんあったら喜ぶなと思っていろいろな魚を作りました。５才児の人たちの中ではやっているキャラクターは何かなと考えて、ようかいウォッチの景品を作りました。５才の人でもかんたんにつれるように強力なじ石を使ったつりざおを作りました。

５・５交流の当日ぼくは、魚つりゲームを楽しんでもらえるかや、学校たんけんでしっかりと案内できるかが不安できんちょうしました。でも、ぼくたちのグループの魚つりゲームは、５才児の人たちに人気があってとても楽しんで魚つりをしていました。喜んでくれるかなと思って選んだ本を読み聞かせしたら楽しそうに聞いてくれました。５才の人たちが、ぼくたちのしたことで、喜んだり楽しそうにしている様子をみると、ぼくも安心してうれしい気もちになりました。

ぼくは、この活動を通して相手が喜んでくれることが、自分にとってもうれしいことになったり楽しい気もちになったりすることが分かりました。だからこれからも、だれに対しても相手が喜んでくれることや、楽しい気もちになることをしていきたいです。みんながそんな気もちを持って毎日を過ごしたらみんなが仲良く幸せな毎日になると思います。

おすそわけ

３月４日、今回で３回目。
自治会にも『つながる』輪がひろがっています。ご協力いただいた皆さま、ありがとうございました❤

くもの糸がつながってつながって大きく丈夫なくもの巣を作るように、おとなり同士のつながりが大きな輪となり速野が強く丈夫につながる！
このことは、日常を心豊かにするだけでなく、もしもの災害時にも強い町づくりにつながるところです。『つながる』ために一歩踏み出しましょう。

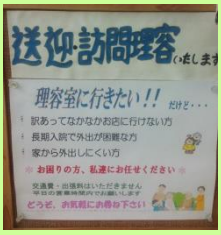
（　問い合わせ先は、速野会館　585-3953　　担当　織田（おりた）　まで　）

「つながる速野」の取り組み

※有線放送で随時情報を発信しています

教えてください

高齢の方の日常の少し困ったなぁ～を解決できる情報を集めています！
　たとえば、木浜の浦谷隆征さんはご近所のお店にお願いして訪問理容してもらわれています。



総務委員会研修

３月５日
　京都市東山区社会福祉協議会の「軒先電球色で安否発信」としてひとり暮らしを見守る活動をされているところを研修しました。今後も多くの事例から学び速野に合った見守り活動が展開していけるように取り組んでいきます

各部会の活動

★エアロビクス　12月10日

サロンボランティア活動講座第2弾！エアロビクスでからだを動かそう！を開催しました。約1時間30分の間思いっきり身体を動かすことができました。

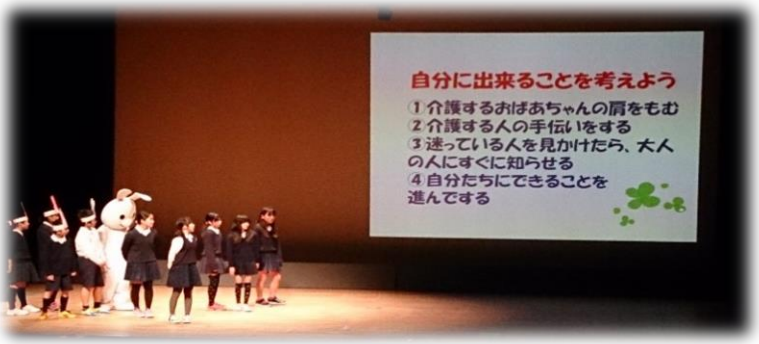
★ボランティアのつどい　2月6日

いつもはスタッフのみなさんもこの日は情報交換しながら楽しいひとときを過ごしてくださいました。

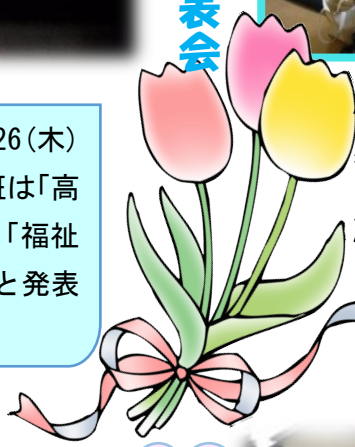
★在宅介護者のつどい　2月19日

当日の介護をどうしよう…？と参加をちゅうちょされている方もご参加いただけるように受け入れ体制を可能な限り考慮しました

★卒業感謝発表会



速野小学校6年生が、「卒業感謝集会」を2/26(木)守山市民ホールで行いました。その中で3班は「高齢者とともに生きるために」の学習から、「福祉の大切さや決意宣言」を保護者の前で堂々と発表していました。



地域で見かけたホットな光景

ええ天気やな！ほな、行こうか！

編集後記

いよいよ、今年度も最後の号となりました。カラー印刷も、だいぶ、定着してきたのではないでしょうか？広報部会では、より良い内容と、学区民の方々に親しみをもってもらえる紙面づくりに工夫を凝らしてきました。原稿の依頼・取材を快くお引き受け下さった皆様に心よりお礼申し上げます。来年度も、生き生きとした笑顔いっぱいの「速野の福祉」にしていきたいです。ご協力よろしくお願いします。